

4月の防除のポイント

令和6年3月27日
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

<施設トマト>

○灰色かび病対策

灰色かび病菌は15～23℃と比較的低温、多湿条件下で発生しやすいため、暖房機の稼動時間が減少するこの時期は、夜間の施設内湿度が上昇し、本病が多発する傾向があります。ハウス内の過湿に注意し、換気を十分に行ないましょう。曇雨天等で換気が十分行えない場合は、循環扇等を活用し、植物体表面を早く乾かすようにして下さい。3月の巡回調査では、発生が確認されていませんが、発病した場合、果実や葉は、早急に処分し、その後、薬剤散布を行って下さい。また、茎葉が繁茂しすぎると通風が悪くなり病害が発生しやすくなるほか、薬剤もかかりにくくなります。適宜整枝、葉かき等を行い、適切な肥培管理に努めましょう。

なお、薬剤散布の際は耐性菌出現防止のため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を実施しましょう。

○黄化葉巻病対策

促成長期どりにおける黄化葉巻病の多発施設は収穫を早めに終了し、感染の輪を断ち切りましょう。気温が上昇すると、露地でタバココナジラミの生存が可能となるため、施設から外へ出さない対策を心がけましょう。

3月の巡回調査では、一部のほ場でコナジラミ類の発生が確認されました。本作型での主要な感染は、保毒虫の侵入により生じることから、施設内へ入れない対策が重要となります。侵入監視は黄色粘着トラップで行い、発生が確認されたら防除指針を参考に殺虫剤を散布しましょう。

<施設イチゴ>

○アザミウマ類及びハダニ類

アザミウマ類の被害を受けた果実は茶褐色でざらざらになり、商品価値を損ないます(図1)。3月の巡回調査によると、アザミウマ類の発生は平年並みですが、今後、気温の上昇と共に発生が増加する可能性があります。幼虫に対してはIGR系殺虫剤が有効で、適期に散布することで被害を抑制で

きます。IGR系統の薬剤は天敵に対しても影響が少ないことが知られています。

ハダニ類は気温の上昇にともなって発生量が増加します（図2）。この時期はカブリダニ類等の天敵類の活動も活発になります。天敵に影響の少ない剤を選択し、天敵と殺虫剤の相乗効果で栽培終盤戦を乗り切りましょう。

なお、受粉用ミツバチを導入している場合、散布薬剤が限定されます。散布前にミツバチに影響する日数を確認しましょう。



図1 アザミウマ類による被害果実



図2 ハダニによる被害株

○灰色かび病及びうどんこ病

巡回調査では、灰色かび病の発生は多、うどんこ病の発生は一部を除いて少ないです。しかし、例年、外気温の上昇に伴い増加する傾向があります。多発すると防除が難しくなるため、発生を確認した場合は早急に処分し、その後系統の異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

<ナシ>

○黒星病

黒星病は、芽基部の越冬病斑等から胞子が飛散する出蕾期からりん片脱落期、開花期直前が重点防除時期となっています。防除指針を参考に防除を徹底し、落花期以降の発生の拡大を防ぎましょう。また、薬剤の防除効果を上げるため、越冬病斑の除去は徹底的に行いましょう。

○赤星病

中間宿主であるビャクシン上の冬胞子は、3月下旬から4月下旬にかけての降風雨によってナシへ飛散、感染します。降雨前後の薬剤散布が効果的ですので、防除指針を参考に適期を逃さず防除しましょう。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。